にわうるし

柴田学園報
第16号（年2回発行）
題字：吉澤秀香

□発行　学校法人柴田学園　〒036-8503　青森県弘前市上瓦ヶ町25番地　☎0172-32-6151

「クリスマス飾り」づくりに熱中する親子を保育科学生がサポート（ヒロロスクエア　平成29年12月23日）

不易と流行

東北女子短期大学
学長　今村　吉彦

政府が力を入れている政策の中に、「高等教育のパラダイムシフト」という言葉があります。パラダイムシフトとは劇的な転換という意味を持ち、これまでの高等教育の中で当たり前とされてきた認識や価値観・ルールといったものをガラリと入れ替えるような事を指すと思われます。確かに情報技術の加速度的な進歩や社会情勢等の変化から、今までのやり方では通用しない事象も起きているため変化を迫られるのは仕方ないとしても、「変えていくもの」と「変えてはいけないもの」の見極めについては、殊のほか慎重に行ってほしいと望んでいます。

さて短大ではこの12月に、学生が時間をかけて準備し成果を実らせた二つの活動が注目されました。

一つは12月23日に弘前駅前のヒロロ3階で行われた弘前市の事業「クリスマスフェスティバル」への協力です。当日は生活科2年11名がステージイベントで食育劇を披露し、保育科1年22名が親子参加型ワークショップ「クリスマス飾り」の製作を通して子ども達と交流し、喜ばれました。150名を超える参加者の材料準備や劇の稽古は大変で、学生は「見えない」作業の大切さを学んだようです。終了後には主催者側からイベント盛況の感謝の言葉と次回の予約があり、その好評ぶりがうかがえました。

もう一つは、12月26日に短大で行われた保育2年の「保育実践演習／劇・ミュージカル」の上演です。今年は「オズの魔法使い」など4演目が発表され、学内はもとより、保育園の子ども達や保護者の方々を魅了しました。学生は10月から取り組んできた準備や練習のすべてを舞台で出しきり、感動の涙で達成感を味わっていました。

「不易流行」という言葉がありますが、前段で触れた、変えてはいけないもの「不易」とは、これらの活動のようなものではないか、と「流行」を急ぐ最近の教育情勢の中で考えるこの頃です。

学園TODAY　　学園TODAY

学校法人 柴田学園　INFORMATION

■柴田学園本部	〒036-8503 弘前市上瓦ヶ町25番地	☎0172-32-6151	E-mail shibahonbu1923@diamond.broba.cc	理事長　今村吉彦
■東北女子大学	〒036-8530 弘前市清原1丁目1番地16	☎0172-33-2289	E-mail zimu@tojo.ac.jp	学長　小澤　熹
■東北女子短期大学	〒036-8503 弘前市上瓦ヶ町25番地	☎0172-32-6151	E-mail gakumuka@toutan.ac.jp	学長　今村吉彦
■東北栄養専門学校	〒036-8503 弘前市上瓦ヶ町12番地1	☎0172-32-6152	E-mail eisen@tcomp.ac.jp	校長　今村吉彦
■東北コンピュータ専門学校	〒036-8503 弘前市上瓦ヶ町12番地1	☎0172-32-6154	E-mail comp@tcomp.ac.jp	校長　今村吉彦
■柴田女子高等学校	〒036-8154 弘前市豊原1丁目2番地1	☎0172-32-0135	E-mail kanri@shibajo.ed.jp	校長　森下好宣
■柴田幼稚園	〒036-8163 弘前市清原1丁目1番地1	☎0172-32-6518	E-mail shibayo1@jomon.ne.jp	園長　神　恵子

編集後記

大寒に入ってもアスファルトが見える道路に楽チンしていたところに列島寒波・白根山爆発のニュース！ブルッときました。さて、今年度で最後の卒業生を送る東北女子大学家政学科では、3月2日から作品展「ぬくもり」をヒロロで開催し、伝統の技術や地道な研究の数々を展示します。

故木村礼子先生が蚕を飼い、藍・綿花を育て、羊毛を刈るなど、徹底した実地体験をもとに製作・研究を指導した「昭和の手仕事」が懐かしく感じられます。ぜひご鑑賞下さい。

学園報編集委員会

学園事業＋外部調査

東北女子大学　家政学部家政学科が今年度で最終を迎える

学園の伝統的特色である家政学において、その高度な学術技芸の最高学府たらんとの願いをもって、昭和44年、東北女子大学が開学しました。初代学長に前弘前大学学長医学博士佐藤熙先生、初代家政学部長に松木侃先生が就任し、仙台以北では唯一の家政学部を持つ大学としてスタートしました。しかし一学部一学科の変則的な編成であったため、昭和49年に児童学科を増設。以来家政学部は家政学科と児童学科の二科による定員100名の学部として、地域に根ざした着実な歩みを重ねてきました。

開学当時の大学校舎全景（弘前市豊原1丁目）

なかでも、家政学科は有能な家庭科教員を輩出して県内外の教育界に大きく貢献しましたが、高齢化社会が進むにつれて、これまで家政学科で行ってきた食分野を重点的に充実特化することが急務となり、平成27年に「家政学科」は「健康栄養学科」と科名変更し、管理栄養士養成校として新たな出発をしました。

この3月には「家政学科」最後の卒業生が社会に旅立ちます。家政学科で学んだ誇りを胸に活躍されることを期待します。

家政学科と大学同窓会が作品展「ぬくもり」を共催

家政学科では49年間培ってきた研究と技術の一端を、被服作品展「ぬくもり」として次のように一般公開することにしました。

・期間　3月2日（金）～3月4日（日）
・時間　10時～18時（最終日は16時まで）
・会場　ヒロロ3階イベントスペース

当日は、昭和60年より神無月祭／家政学科展示にあわせて制作してきた被服作品や研究パネルが展示される予定です。

教職課程の再課程認定申請が始まる

教育職員免許法改正に伴い、平成31年4月より新教職課程が開始されることになり、既存の教職課程について改めて認定を受けることが必要となりました。

学園内での対象校は東北女子大学と東北女子短期大学で、現在両大学では、教職課程コアカリキュラム・地域のニーズ・大学の独自性等を踏まえた、体系的な教育課程の編成及び提出書類の作成を行っています。

今後、2月末まで行われる文部科学省との事前相談を経て、平成30年4月30日までに申請書を提出することになっています。

その後、課程認定委員会による審査等が行われ、平成31年2月中旬頃に認定が行われる予定です。

平成29年度学園主催3市学校説明会および進学ガイダンスを開催

学園主催の学校説明会・進学ガイダンスが、青森市（8月16日アウガ）、弘前市（8月18日ヒロロ）、八戸市（8月22日はっち）の3市で開催され延べ158名の来場がありました。

高校教員向け学校説明会では、入試情報・就職情報等を紹介。その後の進学ガイダンスでは、教職員が個別相談を行ったり、在学生が直接説明をしたりして、学校生活を身近に感じてもらえる工夫をしました。

当日は、夏休み期間中ということもあり、高校生をはじめ、保護者や一般の方が多く訪れ、学園各校に的を絞った質問をするなど、手応えが感じられました。

ヒロロ4階弘前市民文化交流館ホールで行われた進学ガイダンス

栄養士養成施設に係る指導調査と学校法人運営調査委員による実地調査行われる

8月24日、東北厚生局による栄養士養成施設の現地指導調査が実施されました。

対象は東北女子短期大学と東北栄養専門学校の2校で、主な指導内容はカリキュラムの見直し、文書の保存年限の規定の見直しなどで、年度内に改善点について届け出を行うことになっています。

また、10月26日には文部科学省が実施する学校法人運営調査委員による実地調査が行われました。

法人の経営方針や財務状況、施設の現況を視察のほか、調査対象となった東北女子大学と東北女子短期大学の教学面での面接調査、学生へのインタビュー形式での聞き取りなど、多岐に渡り調査が行われました。

具体的な調査結果は3月中に届く予定です。

平成29年度施設設備の充実を図る

東北女子大学
・校舎内及び図書館全館の照明設備LED化工事施工。デジタル印刷機更新。校舎内Wifi環境整備。

東北女子短期大学
・給食管理実習室給湯給水設備、換気設備、暖房設備、照明設備更新。敷地外周の外塀更新。レストスペースWifi環境整備、音楽室液晶プロジェクター購入。

東北栄養専門学校
・調理実習室業務用冷蔵ショーケース更新。

柴田女子高等学校
・無停電電源装置及びNAS購入。ソフトボール用バックネット施工。円型校舎ホール水銀灯更新。

エッセー　ひととき

物理学の道はラビリンス

東北女子大学
教授　比内　馨

小学生の頃、宇宙に魅せられ、中学校に行けば何か宇宙の本質的なことが学べると考えていた。その夢は、中学校でも果たされず、高校へと託された。ところが、高校で学ぶ物理学は、体系化されておらず、単なる断片的な知識の羅列だった。そこで、高校生向けの体系化された物理学の参考書を探し回って見つけたのが、大阪大学の砂川重信氏が著した「例題物理学」（学生社）であった。その前書きに次の一節があった。

―「高校の参考書を書かないかという交渉を学生社からうけたとき、じつはお断りしようと思いました。私たちのように、大学で物理学を研究している人間にとっては、高校の物理は、本物の物理学とは性質の違うもののような気がする…（略）。私たちは、物理学という学問は、すべての自然現象をいくつかの基本的な自然法則にもとづいて、統一的に理解する学問である…（略）。ところが高校の物理というのは、少なくとも外見上は、そうは見えないのです。（略）」（原文抜粋）―

この前書きに嘘のないことは、ページをめくって直ぐ分かった。高校物理では非常識とされる微分方程式が導入され、体系化された内容であった。大学に進んでからは、開講年次を無視し、学びたいことは今やるしかないという意識で、友人とゼミグループを作り、「理論電磁気学」（砂川重信著）や「場の古典論」（ランダウ＝リフシッツ著）等を読破した。大学4年間で学んだ理論物理学は、断片的な物理学ではなかった。一つの体系（量子力学）が、ある条件下で下位の体系（古典力学）へ移行し、また、2つの異なる力（電磁気力と弱い力）が一つの理論（電弱理論）で統一的に説明される。物理学の基本的な力は、重力、電磁気力、強い力及び弱い力の4つであり、この4つの力を説明する理論も原則は4つである。しかもビッグバン宇宙の理論は、この4つの力を統一的に説明する理論でなければならない。二〇一二年にヒッグス粒子が発見されたとき、「標準理論※完成。残りはこの理論と重力の理論の統一による宇宙の解明だ」と、一瞬私の脳裏をかすめた。しかし事はそう簡単ではなかった。天文観測からダークマター（暗黒物質）の存在が示唆されているが、標準理論ではダークマターは説明できない。それを超える理論の構築が必要になった。また、宇宙の加速膨張を説明するために導入されたダークエネルギーの存在にも疑義が生じている。ひょっとしたら、物理学の道は迷宮（ラビリンス）なのかもしれない。

※標準理論…強い力と電磁気力と弱い力の3つの力を統一的に取り扱う理論の一つで、未だ完成していない。

◇同窓会だより

平成29年度同窓会の活動を振り返って

9月10日、柴田学園五校合同の同窓会総会・懇親会が3年ぶりに弘前市の豪華楼で開催されました。

今回は約70名の出席があり、総会では役員改選や会則改正が行われ、荒城英子同窓会長ほか、三役全員が再選されました。また、懇親会では和やかな雰囲気の中、学生時代の懐かしい思い出話で盛り上がったり、抽選会を楽しんだりして旧交を温めました。

10月7日には東北女子大学同窓会が主催して、同大学で「フラワーアレンジメント講座」を開催しました。華道部コーチの斎藤久美子先生をお招きし、在学生を含め12名が参加しました。

また、短大・専門学校同窓会では、学園祭期間中の10月21日～22日に短大図書館で、久保道子さん（被服科4回生）の作品展～八十路を楽しむ～を開催しました。創作人形のほかタペストリーやこぎん刺しなど30数点が展示され、多くの来場者が訪れました。

被服科4回生の久保道子さん（中央）

先輩からのメッセージ

◎東北女子短期大学生活科
平成27年卒
佐藤　結香

医療事務の仕事をして今年で3年目になりました。毎日多くの患者さんが来院され、対応に追われています。仕事の内容は、カルテ出し、受付、会計入力や電話対応です。就職してから「医師事務作業補助者資格」を取り、今は診断書の記載や退院時要約作成の事務作業などの医師に代わって行っています。

◎東北栄養専門学校
平成29年卒
川口　真理

現在、病院で直営の栄養士として勤務しています。職場には管理栄養士・栄養士あわせて6名が在籍し、食事の盛り付けから配膳・下膳・洗浄等の厨房業務と発注や献立作成、患者さんの聞き取り等の栄養士業務を行っております。

美味しい料理を美味しいまま患者さんに提供する事の難しさ、重要性をこの1年で痛感しました。どんなに完璧な料理でも温度管理や盛り付け等の少しのミスで台無しにする事さえあります。365日気の抜けない毎日ですが、これからも患者さんに美味しい食事を届けていきたいと思います。（函館脳神経外科病院栄養士）

教育と研究

「岩木健康増進プロジェクト」に東北女子大学健康栄養学科が初参画

「岩木健康増進プロジェクト」とは、青森県の短命県返上を目的に、弘前大学が拠点となり、弘前市（旧岩木町）、青森県総合健診センター等が連携して、平成17年から弘前市岩木地区の住民（20歳以上）を対象に健康調査を実施し、結果をフォローしている一連の事業を指します。この地方創生推進事業（COC＋）への協力として、平成29年度から東北女子大学健康栄養学科が参画しています。

主な役割は、食生活調査や健診結果から適切な食育と臨床栄養学の面からのアドバイスをすることで、生活習慣病の予防と改善や、健康寿命延伸の一翼を担う活躍が期待されます。

今年度の健診は昨年5～6月に岩木文化センターで行われ、約1000名の参加がありました。

健診後に行われた健康相談や集団教育の現場を見学した学生は、「普段の学びがよく理解できた」と真剣な表情で話していました。

女子大で行われた健診結果説明会（11/18）

第4回保健科学研究発表会が短大で開催される

9月2日、東北女子短期大学を会場に、第4回保健科学研究発表会（今村吉彦大会長）が行われました。

大会では弘前大学の戸羽隆宏教授の講演に続き15題の口頭発表が行われました。東北女子大学からは、健康栄養学科の土谷庸先生、田中夏海先生、江良真衣先生、東北女子短期大学からは、生活科の柳町悟司先生、吉村小百合先生が発表を行いました。

その結果、優秀賞には弘前大学院保健学研究科佐藤琉海さんの「弘前地区における下痢症患者由来のカンピロバクターの分離状況」が選出されました。

その後の情報交換会では、生活科2年5名の学生が給食管理実習で学んだ大量調理法で料理を作り、参加者に提供しました。これに対し、保健科学研究会より特別賞が授与されました。

好評だった学生工夫の料理

第64回日本栄養改善学会学術総会で口頭発表

9月13～15日まで徳島県（アスティとくしま）において日本栄養改善学会学術総会が行われ、東北女子大学の妹尾良子先生が、「献立作成能力を向上する要点を検討する～管理栄養士課程学生の給食1週間献立作成の指導結果より」をテーマに口頭発表を行いました。

内容は、2年生37名が提出した献立について添削・訂正した項目を分析したものです。最も指導を要したのは食材や調味料の分量で、今後料理のでき上がりと調味料の分量が結び付くよう、学生の「分量設定能力」を高めたい、と発表しました。

徳島から新情報を発信

2017　東北女子大学・東北女子短期大学　紀要56号　掲載論文

小澤　熹・崎野三太郎・吉田裕美子
：「学校教育体験実習Ⅰ・Ⅱ」に関する実践研究3
—学生の30・31項目体験評価度と重要項目評価度の比較検討—
佐々木　隆：いじめの一起源とヨブ記の人権教育論的考察
ダミアン神父像が教えてくれるものから
葛西　美樹・安川あけみ：大学の公開講座におけるスチューベン染色の実践報告
崎野　三太郎：トピックモデルとベイジアンネットワークによる段階評価アンケートの分析
船水　周：女子大生を主体的な学びに誘う初年次教育に関する一考察
—固定概念から読書を解放し理解と表現の一体化を図る—
一戸　智之：昭和22年度小学校学習指導要領音楽編（試案）にみる新学習指導要領の解釈のための一考察　～音楽教育の理念とその目標の実践性に着目して～
友田　志郎：プログラミング導入教育の為のScratchの利用
奈良　拓哉：スマートフォン利用の現状とタッチタイプ習得の様子
～独自開発のソフトウエアを利用したタッチタイプの習得～
諸岡　みどり：A市の保育所給食における食物アレルギー患児への対応について
工藤　寧子：環境に配慮した消費生活を考える　—エコバッグづくりを通して—
安川　由貴子：幼児期の教育・保育における「総合的」であることに関する一考察
—幼稚園教育要領の変遷を手がかりに—
福士　章子・諸岡みどり
：弘前市内の幼稚園・保育所の給食における食物アレルギー対応の実態について
本山　敬祐：主体的・対話的で深い学びを促すカリキュラム・マネジメントの実現に向けた基礎的考察　—カリキュラム概念の多義性に注目して—
出口佳奈絵・江良　真衣・花田　玲子・前田　朝美・西田　由香
：1日の食べ合わせによる鉄の腸管内吸収リズムへの影響
齋藤　望・前田　朝美：月経周期における嗜好の違い
田中　夏海・山田和歌子・西田　由香：汁物の具材と食塩量に関する実態調査
保村和良：アメリカ人女性が見た明治中期の弘前の原風景
—メアリークラーク・ニンドの「滞在記」とジョージアナ・ボーカスの報告書簡にみる「子守学校」—
藤田晴央：秋田雨雀、その詩と童話　～〈風景〉に心をみる詩人的作家
佐々木　創：小規模大学の特色を活かした障害学生支援のあり方
—『気づき』『つながる』『つなげる』—
島内　智秋・兼平　友子：保育現場での保護者対応力をつけるための取組（第1報）
—「保育相談支援」の学びやイベント等経験を通して—
小林　由美子：幼児期に、心温まる季節の歌・郷土の歌を
—学生と共に作った子どもの歌—
小山　尊徳：東北女子短期大学における情報教育について
西　敏郎：デュルケム社会学研究　～『自殺論』を中心に～
兼平　拓道：年功賃金は後退したのか　—賃金プロファイルの分析—
兼平　友子：自主・自立を育むための就学後の教育のあり方
—プロジェクト型幼児教育法を基に—
福士　亜友子：歌唱指導における保育者の発声と表現に関する考察
—学生と幼児への実践を通して—
西谷　紀久子：小泉文夫の音楽教育論から学ぶもの
「わらべうたから始める音楽教育」に着目して

公開講座

東北女子大学がヒロロで「ふれあい塾」を開催

12月16日、ヒロロスクエア3階イベントスペースにおいて、「ふれあい塾」が開催されました。第1部は吉田裕美子研究室の「青森県の花材を利用してクリスマスリースづくり」、第2部は花田裕研究室の「本を読んだら？見て、作って、音を出そう！」の講座で、市民70名が参加しました。

講師や学生の温かい落ち着いた対応が、親子の受講者から好評を得ていました。

第2部「本を読んだら？…」

第1部「クリスマスリースづくり」

短大公開講座「絵本好き集まれ」

11月11日、東北女子短期大学で島内智秋先生・福士純子先生が「絵本好き集まれ～好きな絵本を紹介しませんか？」を開催しました。

今回の講座は講義を受けるのではなく、絵本を通して参加者同士が交流する場として行われました。絵本好きの人たちが、各自思い入れのある絵本を持ち寄り、好きな絵本の思い出やエピソードを披露しあうというものです。参加者の中には「息子にも孫にも同じ絵本を読んであげました」という声があり、一冊の絵本を通して三世代が感動を共有する素晴らしさに話がはずみました。

島内先生は「保育園の集まりなどで、絵本を介してうちとけてから子育ての悩みを話し合うのもいいですね」と話していました。

絵本を紹介する島内先生（中央）

地域交流

伝統的に地域との交流を大切にしてきた柴田学園。
今年も公開講座、地域創生推進事業（COC＋）、ボランティア活動、出前講座などを通して多くの人々との出会いがありました。

コラボ企画

東北栄養専門学校生徒が料理指導

2年生が弘前市立堀越小学校で料理指導をしました。これは小学校のキャリア教育の一環として行われたもので、6年生が「清水森ナンバ」で作るグリーンカレー」5年生が「肉まん」に挑戦しました。

児童には難しいメニューでしたが、交代で指導しているうちに無事完成！生徒は未経験者に伝える難しさと面白さを経験し、実践的な学びを深めました。

肉まんのタネはしっかりこねてね！

出前講座

短大が出張公開講座開催

11月22日、東北女子短期大学が大館駅前の映画館「御成座」で、中高生対象の出張公開講座を開催しました。内容は、ジブリ映画のキャラクターをとりあげた「アニメの心理学」と「絵本の料理」の二本立て。実際に料理のレシピを作って紹介したり、絵本の朗読やパフォーマンスをしたり、次回開催の希望が出るほど好評でした。

大館出身の学生たちによるパフォーマンス

ボランティア活動

「松山荘」で奉仕活動

11月25日に弘前市百沢にある特別養護老人ホーム「松山荘」で、毎年恒例の柴田女子高校家庭クラブによるボランティア活動が実施されました。参加した15名の生徒は車いす磨き、窓ふき、部屋の清掃などの作業を手分けして行いました。

作業終了後、みんなで一緒に歌を歌ったり、簡単なゲームをして楽しみました。

初めは緊張していた生徒も入居者の方々の笑顔に引き込まれ、積極的にコミュニケーションをとることができ、充実した奉仕活動となりました。

気持ちよく使ってもらおうね

地域創生推進事業（COC＋）

平成29年度の活動状況

東北女子大学の平成29年度COC＋事業の活動は、「弘前ブロック事業」として12月2日に実施されたホスピタルカフェ（於弘前大学）に健康栄養学科3年生15名が参加するかたちで行われました。この中で県内7病院の関係者と学生同士の交流会がもたれ、学生は管理栄養士や院内の他職種への理解を深めました。

他に、女子学生のキャリア支援事業「くらす？はたらく。都会？田舎（ふるさと）」セミナーが、12月9日に本学で開催され、県内の大学生63名（本学18名）が参加しました。千葉県小学校教諭の黒田亜樹さん（H17年児童学科卒）ほかゲスト3名の多様な働き方、暮らし方を知り、学生は自身の将来に思いを巡らせていました。

また6月と8月に開催された同セミナーでは、幼稚園教諭の村川亜耶さん（H26年児童学科卒）が発表。学生がライフデザインを考えるきっかけとなりました。

都会の暮らしを語る黒田さん

学園ニュース

東北女子大学

夢実現に向けて積極的にボランティア活動

昨年8月1日から2泊3日の日程で児童学科4年の高橋亜佑さんと福士瑞姫さんが、青森県教育委員会生涯学習課が主催する『農山漁村でとことん「学び・交流・体験」事業』に参加しました。この企画は、北海道新幹線でつながった津軽海峡交流圏の自然や文化・歴史を、青森県の小学生と道南の小学生が宿泊しながら学ぶことを目的に行われたものです。抽選で選ばれた県内の4年から6年までの小学生20人と共に参加した2人は「将来小学校教員を目指しているので、子どもの目線で接する教員の姿を間近で見ることができ、とても勉強になった」と喜んでいました。

また、9月30日には児童学科1年の斉藤緑香さんと外崎里帆さんが、中泊町立中里小学校で開催された「土曜学習活性化事業」に参加し、町民文化祭に出展する子ども達の作品作りを手伝いました。42名の児童と関わった2人は「2年次の学外実習を前に子ども達と接する機会が得られて良かった」と話していました。

現在学生サポーターに15名が登録しており、活動の場を楽しみに待っています。

記念のスタンプづくりを手伝う福士さん（左）、高橋さん（右）

柴田女子高等学校

県高校スキー大会開催 回転・大回転とも下山2冠

1月に大鰐温泉スキー場で第70回県高校スキー大会が開催されました。

2年下山紗生さんが回転・大回転ともに制覇し、「柴田女子」の伝統の力を知らしめました。昨年の全国選抜大会で優勝した3年蛯原杏奈さんが、膝の十字靭帯を断裂する大怪我で出場できなくなり、意気消沈して臨んだ大会でしたが、練習で培った高い技術と堅固な精神を発揮し、安定した滑りを見せての見事な2冠達成となりました。

2月4日から岐阜県で開催されるインターハイの大舞台で上位入賞目指して、力強く動き出しました。

（写真提供：陸奥新報社）
回転・大回転を制した下山紗生さん

《第70回県高校スキー大会》
回転・大回転1位　下山　紗生
回転・大回転2位　阿部　碧海
回転3位・大回転6位　西野こころ

バスケットボール部 県新人決勝大会優勝

1月13・14日に県高校新人バスケットボール決勝大会が行われました。

上位4校の総当たりによる決勝リーグで全勝して優勝。来年度に向けて好スタートを切りました。

全国選抜大会県代表決勝で光星高校に逆転負けし、ウインターカップ出場を阻まれた雪辱を期して臨んだ今大会は、もう一度原点に立ち返ってファンダメンタル（基礎基本）を徹底強化し、新チーム最初のタイトルをチーム一丸となって奪取して、新たな歴史を刻む最高の結果となりました。

2月2日から山形県で行われる東北大会では、伝統の「最後まで諦めない」プレーでの活躍が期待されます。

《県高校新人決勝大会》
柴田女子 77 — 62 八学光星
柴田女子 91 — 46 聖　愛
柴田女子 90 — 70 弘前実業

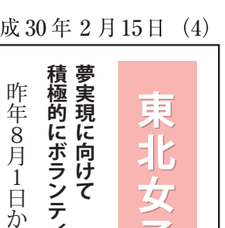
東北女子短期大学

邦楽部・吹奏楽部が日々の練習の成果を披露！

11月3日文化の日、邦楽部の5名が弘前市内のデイサービスセンター「おうよう園」に演奏に出かけました。同園で開催する「おうよう園秋祭り」に招かれたもので、6月に続き今年2回目の訪問となりました。「津軽じょんがら節」や「津軽甚句」などを披露し深まりました。

巧みなバチさばきで魅了

また12月17日には吹奏楽部19名が、デイサービスセンター「ケアパートナー弘前」より依頼を受け、クリスマス会に出かけました。「星に願いを」「オーメンズ・オブ・ラブ」を演奏し、最後には「もろびとこぞりて」を全員で合唱して雰囲気を盛り上げました。


クリスマス気分ほんわか…

生活科学生が田舎館村における特産品開発に挑戦

昨年度「田んぼアートの里ブランド化推進協議会」より、いちごを使った特産品開発の依頼があり、生活科の学生が開発してきました。これまでに「いちごのシュークリーム」「いちごパイ」「いちごスムーズ」「いちごクッキー」「フレッシュ苺の白ワインジュレ」の5種類が、田舎館村のイベントで販売されています。

後期は食品加工学実習において一人1品を目標に、「レストランで販売するメニュー」「お土産加工品」「テイクアウトメニュー」のテーマで取り組んでいます。学生は試作を重ね、みんなで試食・評価・改善を繰り返して「田舎館のいちごを使ったレシピ集」の完成に力を注いでいます。

私はこれが好き！私はこれ！

専門学校

東北栄養専門学校 食の大切さを伝える「えいようのおはなし」

2年生が12月に、市内3箇所の幼稚園・保育園で食育指導を行いました。

子ども達に分かりやすいように、寸劇「ドラえもんが教えてくれる食事中のマナー」「桃太郎が鬼退治をする力の源になった朝ご飯の大切さ」「赤ずきんとオオカミさんの3つの色の食べ物のお話」を作り、披露しました。

シナリオ、衣装、小道具を手作りし、子ども達が飽きないようにクイズを設ける等の工夫を盛り込み、スリルテージではオーバーなくらいの身ぶり手ぶりで演じました。園児は笑ったり、驚いたり、応援してくれたり、クイズに我先にと答えてくれたり…。その反応を見て生徒は伝えることの難しさと楽しさを感じていました。

「赤の食べ物どぉ～れ？」

柴田幼稚園

初めてのりんごもぎ 上手にできたよ

秋晴れが心地よい10月18日、年長組39名がりんご公園でりんごもぎを体験しました。みんなりんごは大好きですが、りんごの木を近くで見たり、実際にもいだりするのは初めてです。

赤いツヤツヤのりんごを探して、りんごのおしりが上を向くように大事にもぎました。「早く食べたぁい！」と言っていた子ども達。自分でとったりんごの味は格別だったでしょうね。

大きい組さんのワザすごいね！

12月5日に年長組がなわとび練習の成果を披露するなわとび大会が行われました。前とび・後ろとび・片足とび・走りとび、できる子は交差とび・あやとびにもチャレンジ。自信をもって跳んでいる姿を見て、年少・年中さん達の目も輝いています。「カッコイイ！すごい！」という声や大きな拍手に、跳んでいる子ども達も満足気です。次の日から、なわとびに挑戦する子が全園にひろがりました。

落とさないように、慎重に

「がんばったとこ、見せるぞ！」

東北コンピュータ専門学校

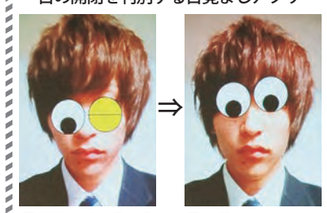
2年生が多彩な内容で研究発表

卒業研究発表会が1月25日に行われ、7班が独創的なテーマで発表しました。

その中で、「目の開閉を判別する目覚ましアプリ」「センサーを利用した健康チェックで短命県返上」「手指で画面の箱やボールを操作する仮想現実手法のリハビリアプリ」「店の看板や玄関に反応して情報提供するARアプリ」などが実演されました。

2年生は会場からの質問や好評価に、満足気でした。

目の開閉を判別する目覚ましアプリ


目が開いているか？を判定中！　⇒　目一杯開くとアラームが止まる！

各ゼミのテーマ
1. 非接触バイタルセンシング ～Kinectによるモニタリング～
2. ヘアスタイリングアプリの開発
3. 失くし物を予防する ～Beaconを利用したモノ管理システム～
4. MRアプリケーションの開発
5. 目の開閉を判別する目覚ましアプリの開発
6. IoTを利用したオープンデータの活用 ～防犯システムの作成～
7. ARを使った店紹介アプリの制作

寒いけど、パウダースノー最高！

保育科1年スキー実習 風を切って元気いっぱい

去る1月26日、27日の二日間にわたり、岩木山百沢スキー場でスキー実習が行われ、保育科1年75名が参加しました。

雪が降りしきる中、軽いウォーミングアップの後、初級から上級まで7クラスに分かれて、グループレッスンに入りました。学生は青森、秋田、岩手と北国出身ですが、全くの初心者もいれば、鮮やかにパラレルターンを決めるハイレベルの経験者もおり、それぞれのコースで新雪の感触を楽しみました。

二日目は土曜ということもあり、ゲレンデには家族連れの姿も見られました。学生達は、雪遊びに興じる子ども達に思わず笑顔で応えながら、未来の自分の姿に思いを馳せていました。

Topics 東北女子大学 平成28年度進路決定率100％「就職に強い女子大学」の知名度アップ

29年3月卒業生の進路決定率が、家政・児童両学科とも100％に達した東北女子大学。教員（中高・小・幼）、栄養士、保育士などの専門職をはじめ、金融、一般企業への就職も順調で、「就職に強い女子大学」として雑誌やネットに掲載されました。

今年の4年生も活発に就職活動をして結果を出しており、現時点での未決定者はわずか数名となり、昨年度に続く勢いです。

昨年度の大学評価審査では、同大が行っている「関東圏ネットワーク懇談会」などのキャリア支援が確実に就職好調につながっている、と高い評価を受けています。

関東圏ネットワーク懇談会 29.2.18（東京）